

団体名	特定非営利活動法人 目と心の健康相談室
助成額	100,000 円
申請事業名	5 周年記念講演会 広げよう思いやりの輪・輪・輪！
HP	https://metokokoro.jimdofree.com/

活動・事業報告

視覚に關与する病では、機能回復が不十分だと失明への不安や稼得は保てるかなど、社会生活に即座に支障が出ますので問題が生じます。医療施設では診断と治療が中心なので、これらの問題までは扱えません。自治体等も法的視覚障害以外の対応は事実上できない場合がほとんどです。

「目と心の健康相談室は」医師と看護師やコメディカルなど眼科に精通した仲間で構成されています。私たちは、こうした行き場のない悩みを抱えた方々に利用していただきたいと考えています。そのために、多くの方に相談室の存在を認知していただきたく毎年無料講演会を行っております。今回は平日にも係らず 160 名以上の参

加者があり、関心の高さを感じました。

アンケート回収率は 52%でした。アンケート回答者の中で 16 名の方が「無料相談」を希望されましたので抽選で 10 名の方に無料相談チケットを送りました。現在までに 6 名の方の相談を実施いたしました。講演の講師（3 名）全体的評価は 68%の方が大変良かった、良かったで 32%の方が、普通・あまり良くなかった・回答無しでした。

無料相談を受けられた 6 名の方からは良かったと評価いただき、3 名の方が会員になりました。

<5 周年記念講演会> 広げよう思いやりの輪・輪・輪！ (参加者：160 名余り)

2019 年 9 月 5 日(木) 12:00~16:10 和光大学ポブリホール鶴川

患者、家族、周囲や専門家各々の立場から、主体的に社会を変える声や動きの輪を繋ぎ合わせる大切さを確認しました。今後とも、皆様のお気持ち・思いやり・お力を、輪として繋げる当室の使命を推し進めるため、当相談室へのご支援をお願い申し上げます。

第 1 部：患者、障害者に寄り添うとは(当事者の体験から)

1) 「網膜色素変性とともに歩んだ半生」 セアまり (絵本作家)
盲導犬同伴でステージに登場され、ご自身の若年期からの歩みや、網膜色素変性症の発症と進行、お子様の生活等についてお話しくださいました。

2) 「眼球使用困難症候群は、なぜ理解されないのか」 相澤桂子 (元教師、当室スタッフ)
眼球使用困難症候群の当事者、また当相談室のスタッフとして「眼球使用困難症候群は、なぜ理解されないのか」を事例を挙げ説明されました。

3) ミニライブ「緘黙(かんもく)の歌声」 若倉純 (シンガーソングライター)

第 2 部：「医療における思いやりとは？」 若倉雅登 (当室副理事長、井上眼科病院名誉院長)

従来型診療から漏れ、よりケアが必要な患者像が示され、当室が寄り添う対象が明確になりました。

第 3 部：フォーラム 質問と自由発言 (演者・参加者全員)

参加者から演者へ質問・演者間の情報確認や交換が、活発になされました。

アンケートに答えてくださった方の中から、「無料相談チケットが当たる！」を企画して好評でした。



助成金を受けての成果とその自己評価

アンケート項目の相談したいことでは
 ・夫が加齢黄班症があり目の不快感を訴えているので対処法を教えてください
 ・視力障害者です。仕事のこと生活のこと付き合いのことなどいろいろ心配があります。
 ・現在の疾患の治療とその限界について

・眩しい・痛い、日常生活に支障があり辛い
 ・眼瞼けいれんについて聞きたい
 ・自分の目について、一喜一憂することがある。
 自他に対して心理支援を考えるヒントがほしい
 ・失明したあとの生活
 ・2 人の子どもが難病を抱えている。

今後の活動の展望

地域住民や公に係る機関に対しても、専門職が運営している当相談室を「講演会・無料相談会」や

「広報誌発行」などで啓発活動を行いたいと思います。

理事長挨拶 荒川 和子

皆様、いかがお過ごしでしょうか？新型コロナウイルス感染の流行で生活は一変して多くの戸惑い、不安の中でお過ごしのことと案じ、一日も早い終息を願うばかりです。

そして、また多くの皆様からご支援をいただき今日まで活動できますことに心から感謝申し上げます。

昨年度は、当室が5周年を迎え「5周年記念講演会」開催、副理事長若倉雅登医師の「若倉雅登先生の古稀と出版を祝う会」を盛大に行うことができました。

たくさんの方々にお祝いしていただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

さて、当室では、電話相談が主体ですが、対面相談も増えております。その他、眼球使用困難症候群を持つ患者様の問題抽出やその解決の糸口を見つけるため、ご自宅を訪問させていただくこともありました。相談室レベルでできることには限界がありますが、どこに相談してもケアが受けられないという訴えも多く、相談室としても医療福祉などさまざまな職種との連携の必要性を感じております。相談件数は増えており、解決の難しい症例も多いのですが、「それでもひとりで悩まないで！」と申し上げます。お手伝いいただけるボランティアも増えており、様々なご相談に対応できるように充実させてまいります。

今後ともどうぞよろしく御願ひ申し上げます。



ビデオレターはこちらから

<https://youtu.be/zM2Z43oHOPs>

